

刻石流水

京都府立東宇治高等学校
第2学年 学年通信
第4号
令和7年7月18日

～受けた恩義は心の石に刻み、施したことは水に流す～



夏休みが始まりますね。勉強、部活、その他もろもろの日々押し寄せてくる日常から、少し解放される夏。新しいことに挑戦しよう、というメッセージを発したかった私は、せっかくなので自分も何か新しいことに挑戦しようと思い、福岡伸一著の『世界は分けてもわからない』を読み始めました。普段は手に取らない、理系の香りが漂うこの本の中でさまざまな気づきにわくわくしながら読み進めていくと、P110で渡辺剛さんの『Border and Sight』という作品が紹介されていました。とても衝撃を受けたので、この紹介を引用します。「私はその写真を見たとき、いささか戸惑わずにはいられなかった。どのように見ればよいのかわからなかったからである。渡辺剛さんの写真はどれも二枚一組になっていた。『Border and Sight』と題されたこれらの作品群は、国境（あるいはそれに準じた、異なる政治的領土が隣り合う場所）のある地点を、双方の視座から眺めたものである。アメリカとメキシコの国境を撮影した写真には、浜辺から海に向けて、低い古びた板塀が伸びているのが見える。それほど長くはなく海上で途切れている。ちょっと海に入り、塀のへさきを泳いで回れば容易に行き来できそうな雰囲気ではある。しかし、渡辺さんが撮影のために、アメリカ側のこの区域に接近すると、どこからともなく黒い大きなヘリコプターが爆音を立てて現れ、威嚇的な監視を開始したという。塀のへさきをちょっと泳いで回るつもりはもちろくない。彼らを警戒させる意図など全くないことを示すため、写真をとり終えた後、ゆっくり、神妙に後退してヘリコプターをやり過ぎた。そしてこの地を離れた。米国内の拠点空港へ行き、そこから出国した。数時間のフライトのあと、着陸した空港のパスポートコントロールで新たな入国の手続きを行い、メキシコへ入った。そのあと車を長時間運転して、ようやく渡辺さんは塀の向こう側からこちら

を写すことができたのである。(中略) 渡辺剛さんは時間と手間と労力を惜しまず、境界のこちら側から向こう側へ苦勞して回り、同じ時刻、同じ天候、同じ光を選んでそれぞれから他方を眺める写真を撮影した。」本の中には白黒の写真がいくつか掲載されていました。すごい人がいるんだな、カラーで見たいな、と思いました。なので夏休みには、写真集を見に本屋さんに行こうと思います。読書をしていると、その本の中で別の本が紹介されていて、合わせ鏡を覗き込んだ時のように、経験が増えていくような感覚になることがあります。51期生の皆さんは、国語の時間に図書館で本を借りていましたね。

夏休み、どんな読書体験が待っているでしょうか。

参考文献：世界は分けてもわからない。福岡伸一著。2009年

当面の予定・イベント

7月 22日(火)～7月 28日(月) 夏期講習(前期)
7月 22日(火)～三者面談
8月 25日(月)～8月 28日(木) 夏期講習(後期)
9月 1日(月) 始業式 オープンキャンパスブック提出・夏課題テスト
9月 2日(火) 3年次科目選択本登録用紙提出
～8日(月) 文化祭準備期間
9月 9日(火)～11日(木) 文化祭



「夏休みをより充実させる秘訣」

新しいことに挑戦してみよう!と意気込んでいるだろうみなさんに、みなさんよりも長く生きている私から助言を2つ。1つ目、計画を立てましょう。計画を立てないでなんとなく楽しく過ごしていると、何となく何もなさないまま夏休みは終わります。これは悲しいことによく繰り返される悲劇です。2つ目、規則正しい生活をしましょう。おそらく小学生の時から、夏休みや冬休みの度に、繰り返し言われてきたことだと思いますが、伝統として連綿と続いているものには理由があるのです。

この2点を心に留めて、夏休みを楽しんでください。

